

上方舞 素による試演勉強会

第三回 游の会

平成十九年九月二十一日(金) 午後七時より 開場三十分前
代々木能舞台内 敷舞台 渋谷区代々木四 三六 一四
電話 〇三 三三七〇 二七五七
京王新線・初台駅より徒歩八分

行交う雲のあわいより、涼風の通うこの頃でございます。厳しい暑さがひとしおでございましたが、いかがお過ごしでしょうか。みなさまのご支援に深く感謝申し上げます。『游の会』では、素の姿で舞うことにより本来の自分をみつめなおし、舞の礎をしっかりと築きあげたいと願い、初心に戻り精進を重ねております。

会場の代々木能舞台は大正十年頃の遺構で、都内唯一の古式ゆかしい野外能舞台、その屋敷内の敷舞台を使わせていただきます。見所はお座敷、座布団にお座りいただき、ごく間近からご覧いただけます。みなさまから厳しいいまなごしをいただくことにより、一挙手一投足、磨きなおして参りたいと存じます。なにとぞご来駕の上、ご指導、ご鞭撻賜りますよう、お願いもつしあげます。

平成十九年初秋 吉村桂充

地唄 八島

上方唄 ぐち

舞/吉村桂充 唄・三絃/北村珠邦

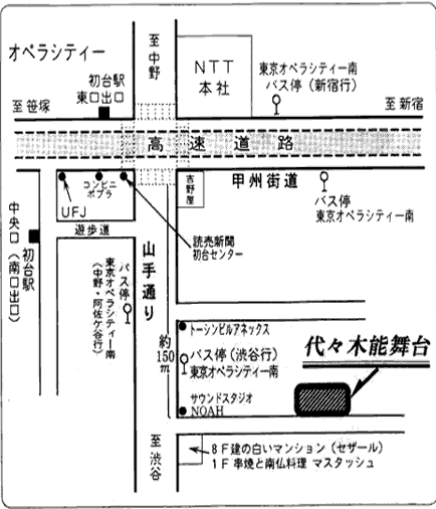
お話/馬場光子

『八島』 三下り謡い物。藤尾勾当作曲。能「屋島」の後半を地唄に作曲したものの。讃岐の八島の浦で、西国行脚の西行法師の前に源義経の亡霊が出現し、壇ノ浦の源平の合戦の修羅のありさまを語ってみせます。動きの激しい「修羅もの」の舞です。

『ぐち』 本調子上方端唄。作詞作曲者不詳。たまの逢瀬にうれしさをかみしめながら、つれない男へのうらみつらみをくどき、ぐちる女心を描いた小品です。しっとりとして艶やかな情感にあふれた曲で、座敷舞の艶ものの代表的な名曲です。

会費 二千円 自由席(当日受付 畳敷きに座布団 椅子のご用意あり)
主催 上方舞友の会 office@kamigatamaitomonokai.org
電話 〇九〇 六一八三 〇八四九 ファックス 〇三 三四二五 二七〇六

【会場 代々木能舞台 案内図】(駐車場はございません)



【交通】
京王新線 初台駅 東口 または 中央口(南口出口)より 徒歩8分
バス 渋谷駅から
中野行・阿佐ヶ谷行 東京オペラシティー南下車徒歩6分
新宿駅西口から 新宿車庫行 東京オペラシティー南
(京王百貨店前) 注: 運行本数少し 下車徒歩4分